

ティーチング・ポートフォリオ（教育業績ファイル）

教員氏名	仁科 岡彦
主な担当科目	芸術運営論 I, 音楽芸術環境研究 I, インターンシップ①, インターンシップ②, フィールドインターンシップ①, 音楽活動研究①, 音楽活動研究②, 音楽活動研究④
シラバス	ここをクリック（本学WEBシラバス・科目検索ページにリンクします）
2021年の教育目標・授業に臨む姿勢	講義の内容を充実させる。そのための事前準備を十分におこなう。またアートマネジメントコースでは自主企画やインターンシップ、学内実習など教員や学生との授業以外での連絡がかなり頻繁に行われるがその対応を迅速に進める。
2021年の教育に関する自己評価	本年度新たな課題についての講義を行ったが十分な準備ができた講義とまだまだ不十分な点もあると感じる。また教員、学生間の連絡についてはとにかくレスポンスを早める努力はしたがなかなか膨大な連絡を処理しきれない所もある。
2021年のFD活動に関する自己評価	FDの課題には具体的な状況で最善を尽くすようになってきた、と言える。
授業改善のために取り入れた研修内容	とにかく授業内容を解りやすく行うように努めた。またゼミでのきめ細かい指導を心がけた。

2021年度(後期・通年)「学生による授業評価アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：2729 教員名：仁科岡彦

インターンシップ②

1) 評価結果に対する所見

授業への評価が、全体平均をわずかに下回っている回答が多い。2020年以來コロナ禍にあり、インターンシップという授業の特性上、インターンシップ先の受け入れ状況は、社会状況に大きく影響を受けており、残念ながら例年のように学生が希望する研修内容を展開することが難しく、それが評価に直結してしまっているのではないかと。

2) 要望への対応・改善方策

アンケートにおいて「自由記述」がないため、対応・改善方策について特に記すべき事項はないが、高い評価を得られるよう、授業を実施していきたい。

3) 今後の課題

授業評価アンケートの参加学生が①13人中2人以下、②も6人中3人だったため、今年度は多くの学生がアンケートに参加するように周知したい。
またインターンシップ実施後の報告書の作成・回収がより迅速に進められるように周知し改善できるよう努めたい。インターンシップのよる個々の貴重な経験を、よりの確に体現し充実した報告書、報告会の内容となるように授業内報告等通じて指導していきたい。

音楽活動研究①②④

1) 評価結果に対する所見

後期の授業日程を teams で周知したが、分かりにくいとの連絡があった。
昨年の②履修者が①を聴講できたことにより、今年度の②履修者の講義内容に意見があった。

2) 要望への対応・改善方策

後期の授業日程の連絡方法にポータルサイトを加える等2022年度より実施している。
今年度の②履修者が昨年度の内容と同じにならない様講義教員に工夫をしてもらっている。

3) 今後の課題

コロナの影響で一昨年①②が開講できなかった関係で現在③④履修者がおらず今年度の「音楽の贈り物」の学生参加に不安要素が多いが本番に向けて努力したい。

音楽指導論特殊講義

1) 評価結果に対する所見

回答数があまり多くないので全体の意見が解らない。初めて行った講義だがそれなりに内容についての手ごたえは感じている。

2) 要望への対応・改善方策

自分の教えている中学、高校で音楽鑑賞公演を実施するときの企画書を作ってみよう。という試みは今年度も続けるつもりだが、演奏系の学生に企画書の作り方をもっと分かりやすく短時間で伝える方策を検討する。

3) 今後の課題

企画書の作り方、実際の作成に加えてできれば全員がプレゼンテーション出来ると良い、と考えている。

音楽芸術環境研究 I

1) 評価結果に対する所見

日本における明治以降のクラシック音楽の現場を俯瞰した。

2) 要望への対応・改善方策

できれば授業中により多くのディスカッションが取れると良かった。

3) 今後の課題

今年度は音楽芸術制作研究 I を担当するため具体的に制作実習をシュミレーションする授業を実施したい。

以 上